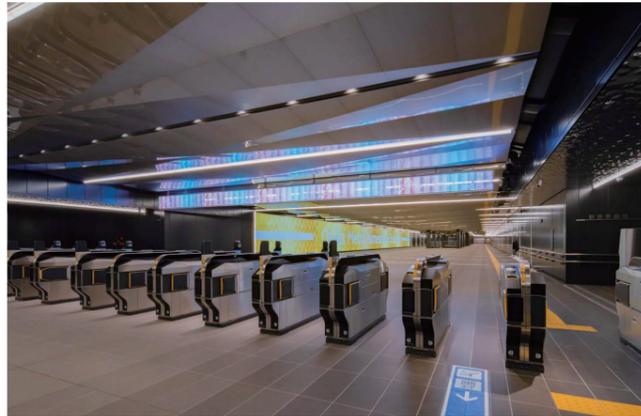
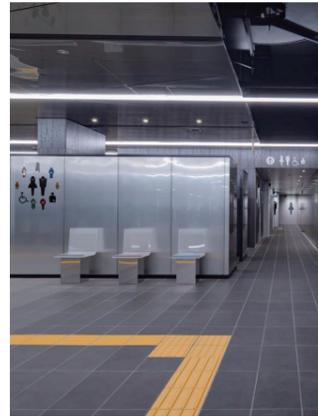


Osaka Metro 中央線 夢洲(ゆめしま)駅



改札

「EXPO 2025」会場の最寄り駅として開業された「夢洲(ゆめしま)駅」。「移世界劇場」をデザインコンセプトに、質感を活かした設計や大型LEDビジョンの映像演出などにより、空間全体で移動の魅力を体感できる。



トイレ入口・案内表示

Osaka Metroで初導入となる「満空表示システム」を採用。機能分散された各トイレの設備情報までをわかりやすく表示、利便性を向上させている。Osaka Metroの公式アプリでも空き状況が確認できる。



バリアフリートイレ

混雑を想定し、2ヶ所設けられたバリアフリートイレには、使い勝手を考慮して左右勝手違いの異なる器具を完備。収納式多目的シートや汚物流し、フィッティングボード、全身鏡などを備えている。

トイレ図面

男女別トイレは、プライバシーに配慮して通路の奥に配置。オールジェンダートイレは、安全面を考慮し、人通りの多い通路手前に設置され、気軽に利用できるようにしている。



水まわりの特長

建物の特徴

「2025年日本国際博覧会(EXPO 2025)」の開幕に先立ち、2025(令和7)年1月に世界各国から訪れる人々を迎える玄関口として、Osaka Metro 中央線「夢洲駅(ゆめしま)」が、会場最寄り駅として開業。移動の魅力を発信する駅「移世界劇場」をデザインコンセプトに、運行ダイヤ図を折り紙で表現した「折り紙天井」や多様性を表現した「鏡面・ゆらぎ」、時空を超えて移世界へ導くような演「灯り」の演出で具現化。また、アルミ材素地にクリア塗装を施したシンプルな素材の使用や、大型LEDビジョンによる映像演出を通じて夢洲駅の魅力を発信。これら全体の空間演出により、夢洲駅に訪れた人々が、動きや多様性、そして移動の魅力を体感できる「移世界劇場」となることを目指している。

トイレの特長

駅トイレの満足度は、施設全体や会社の評価に直結すると考えるOsaka Metroは、トイレ整備コンセプトとして、おもてなしの心を伝える「Hospitality Communication」を掲げている。さらに夢洲駅では、駅全体のテーマと融合。明るさや清潔感を確保しつつ、最上級の空間を駅構内で提供している。また、限られたスペースを最大限に活用、混雑緩和にも寄与すると想定し、Osaka Metroでは初となるオールジェンダートイレを6ブース導入。さらに、機能分散されたブース内の設備情報も、満空表示システムにより提供するという実験的な取り組みもなされている。衛生器具は、これまでOsaka Metro他駅で採用されてきた節水や衛生面で効果的なものを選定し、だれもが快適に利用できる環境を整えている。

建築概要

名称	Osaka Metro 中央線 夢洲(ゆめしま)駅
所在地	大阪府大阪市此花区夢洲中1丁目
施工	株式会社大阪港トランスポートシステム
設計	大阪市高速電気軌道株式会社・株式会社安井建築設計事務所
施工	大林・熊谷・東急・東洋特定建設工事共同企業体
竣工年月	2025年1月
延床面積	4,904.17㎡
構造・階数	鉄筋コンクリート造、一部骨組膜構造、鉄骨造・地下2階

おもなTOTO使用機器

- パブリック向けウォシュレット一体形便器:CES9251P
- 壁掛大便器セット・フラッシュタンク式:UAXC3CR2A1、UAXC3CL2A1
- ウォシュレット アプリコットP(擬音装置「音姫」付きエコリモコン):TCF583*AEY系
- スベア付紙巻器:YH163 R/L S/自動洗浄小便器:UFS900WR
- 洗面器:L710CM/壁掛ハイバック洗面器:LSB135CB/壁掛洗面器:L250CM
- 壁掛手洗器:LS*90BAP系/自動水栓一体形温水器:REAH03B1系
- 水石けん入れ:TLK05202J/クリーンドライ(ハンドライヤー):TYC420W
- コンパクトオストメイトバック:UAS81LDB1NW/背もたれ:EWC282系
- 収納式多目的シート:EWC520AR系/ベビーチェア:YKA15S
- フィッティングボード:YKA41R
- パブリック用手すり:T112C6、T112CP22、T112HK7R



オールジェンダートイレ入口



だれもが使いやすいように男女別トイレの手前に配置。ピクトグラムは、Osaka Metroのトイレで定着している「ようおこし」のデザインをベースに、世界の民族衣装を用いることで、あらゆる人々(=多様性)を表現。



オールジェンダートイレ



機能分散を図り、オストメイト配慮ブース、乳幼児連れ配慮ブースなど計6ヶ所の手洗器付きの個室を用意。独立した手洗いコーナーも設置され、閉塞感をなくすために部分的にガラス壁を用いている。



男性トイレ



衛生的に手洗いができるよう、自動水栓と水石けん入れを採用。小便器の間には、曇りガラス調の間仕切りを床から天井まで設置することで、プライバシーを確保しつつ、圧迫感のない快適な空間を実現している。



女性トイレ

洗面コーナーに加え、複数人が同時に利用可能なスタイリングコーナーを設置し、混雑緩和に配慮。大便器ブースの間仕切りは、パーテーションではなくLGSボードで天井まで立ち上げることで、個室感を向上させている。



ベビーケアルーム



授乳室周辺をベビーケアルームとして整備し、おむつ販売の自販機や専用ゴミ箱、手洗いコーナーを設置。ベビーケアルーム内で行いたい、必要な行為すべてが完結できる環境を整えている。



カームダウン・クールダウンスペース



必要とされる方の声に応え、改札内コンコースと改札外の2ヶ所に気持ちを落ち着けるスペースを設置。2つの半個室は、仕切り壁に囲まれた設計。使用目的を示すサインを設置し、安心して利用できる空間を整えている。